



心身ともにリラックスした状態で、受験に臨もう!!

推薦選抜入試の受験について

これから12月初旬まで、四年制大学等の推薦入試の時期になります。出願については、書類の記入漏れ等がないようによく確認をすることが大切です。なお、志望理由書の清書は必ずコピーをとり、面接練習の際、活用するようにしましょう。出願から受験日まで、短い期間になりますが、面接・小論文・学科試験等の準備を十分に行い、自信をもって受験日をむかえることができるようにしましょう。

○ 体調を整えること。

寒くなってきたこの時期に、風邪をひく生徒が増えてきます。予防に十分な対策をし、健康を維持しましょう。また、受験勉強のために夜遅くまで起きている機会が増えていますが、睡眠時間を確保し、体調を崩さないようにしましょう。受験日が近づくと、精神面で落ち着かない生徒も出てきますが、心身ともにリラックスした状態をつくりだすためにも普段通りの学校生活を送ることが大切です。コンディションを整えることが、自分の実力を最大限に引き出すためにも大事なこととなります。

○ 志望理由書をよく読んでおくこと。

面接練習で上手に受け答えが出来なかった部分を再度確認して、質問に対応できるように準備をし、指摘を受けた話し方などを意識するようにしましょう。志望理由書のコピーをよく読み直して、アドミッションポリシー、活動報告や学修計画の内容で説明不足の点がないかをよく確認しましょう。また、進路ノートの自分が今まで書き溜めてきた事柄をもう一度読み返しておく、自分の考え方の推移を整理することができます。

○ 受験直前・当日は、“いつもの自分”でリラックスすること。

試験会場への経路や所要時間を事前に確認し、焦ることのないようにしましょう。緊張するのは、当然のことだと思ってください。ただし、過度の緊張では自分の実力を出せません。心を落ち着かせて試験に臨みましょう。

就職内定者・専門学校等合格者について

- ・専門学校等の合格者は、速やかに入学手続きをすること。手続き上必要な書類を確認し、提出締切日に遅れないようにすること。特に入学金等の費用の振込期日・方法については、保護者の方とよく確認すること。
- ・就職先の会社や進学先の学校から出された課題は、担任に連絡・報告し期日までに必ず提出すること。教科によっては、自分一人では対応できない部分もあるので、早目に対応すること。
- ・学校の推薦を受けて、就職の内定や学校の合格が決定していることを自覚して、今後の学校生活を送ること。
- ・数か月後には、実社会に出ていくことを自覚して、高校生から大人になることを意識すること。成人として自分の発言や行為・行動が好ましいものかをよく考えること。
- ・これから受験を迎える生徒も多数いるので、進路先が決まっているからといって、自分勝手な行動をとって、周囲に迷惑をかけることがないようにすること。

高校生のためのSDGs推進講演会について

9月29日（木）、本校体育館において全学年対象に高校生のためのSDGs推進講演会を開催しました。

講師には、**会津大学のグローバル推進本部国際戦略室**上級准教授 **川口立喜**先生をお招きしました。

「**持続可能な開発目標（SDGs）の理解への第一歩**」～一人ひとりが創り出す未来～という演題で、SDGsの概要、世界の現状やSDGsへの取り組みなどについて、講演していただきました。

地域探究を進めていく中で、SDGsの活動と今後、生徒自身がどのように携わっていったらいいのかを考える良い機会ができました。また、講話の中で、「気づきが大切である。」「物事を多方面から見る必要がある。」「異文化理解には、対話することが大事である。」などの言葉が、生徒たちには強く印象に残ったようです。



大学入試の傾向について

学力の三要素である「**知識・技能**」、**「思考力・判断力・表現力」**、**「主体性・多様性・協働性」**が重視される中で、大学入試での評価方法もおおきく変化しています。

総合型選抜と学校推薦型選抜による入学者数は、右の図のように私立大学、国公立大学に限らず、着実に増加しています。

総合型選抜では、探究活動の観点で受験生を評価し、高校と大学の連携を図ろうとしています。大学は探究をする機関であり、**高校での探究が大学での研究につながる**と考えているからです。

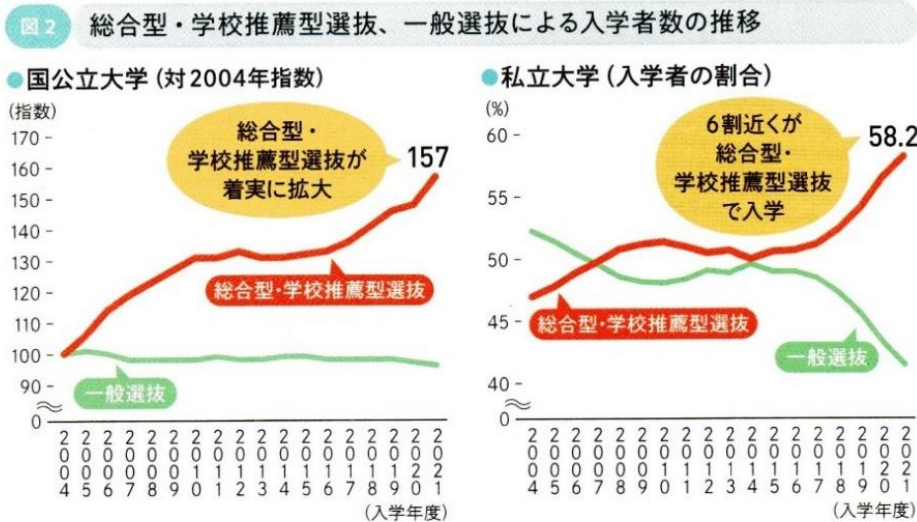
各大学の選抜方法は次のような種類があり、いわゆる「探究型の入試」の拡大傾向は今後も続くものと予想されています。

- I 実績・プロセス評価型** 探究活動の成果やプロセスで得たものを評価
- II 高大接続型** 大学と連携した探究活動の成果を評価
- III 資質・能力評価型** 探究型の資質・能力を評価

自分が高い関心を持ち探究を深めていきたい分野と大学で研究を深めたいことが一致すると「探究型の入試」には円滑に対応できると考えます。

学校推薦型選抜による入試においても、志望理由書の一部や活動報告書で高校での探究活動について記載を求めている大学が多くなっています。1・2年生で進路希望先が決定している生徒は、自分が志望する大学の募集要項の内容を読み、どのような選抜方法があるかを確認し、提出しなければならない志望理由書・活動計画書・学修計画書の記載事項を見ておく必要があります。今取り組んでいる探究活動を充実させて、取り組み内容を具体的に説明できるようにしていきましょう。

探究学習を深めるためには、当然のことながら学ぶ意欲や豊富な知識も必要となってきます。基礎力が無ければ、応用力も身に付きません。普段の授業を大切に、学力を地道に向上させていく必要があります。



『VIEW next』10月号2022 ベネッセコーポレーションより転載